

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22390422

研究課題名(和文) 癌治療後のリンパ浮腫患者に対してジェネラリストが行う看護技術開発に関する研究

研究課題名(英文) A study on the development of nursing skills for patients with lymphedema associated with cancer treatment

研究代表者

中尾 富士子(Nakao, Fujiko)

熊本大学・大学院生命科学研究部・准教授

研究者番号：40363113

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,500,000円、(間接経費) 1,650,000円

研究成果の概要(和文)：癌患者の治療に伴う続発性リンパ浮腫の発症予防のための日常生活指導について、根拠に基づいた看護方法や技術を基に看護師教育プログラムを作成した。複合的理学療法を基に教育プログラム(v.1)を作成し、看護師の理解度や技術達成度を評価した。結果、4日間(7時間/1日)で、リンパ浮腫の知識(基礎編)、複合的理学療法と日常生活指導(応用編)、セルフリンパドレナージ実技、の要素を入れたプログラムの有用性が示唆された。要素の明確化は、多様な臨床現場の患者と看護師の状況を反映したプログラム構成など汎用性がある。今後は、標準化した教育プログラムを開発し適切な看護技術の定着を試み、対象者の生活の質の維持を目指す。

研究成果の概要(英文)：The onset of lymphedema is due to an interruption of the lymphatic flow associated with treatment for breast or gynecological cancers. It causes a declining Quality of Life (QOL) for patients, including changes in body images. However, Evidence-Based Nursing (EBN) have not been established in actual clinical sites. The purpose of our study was to clarify EBN to prevent from lymphedema and to create an educational program for nurses. We created a program based on Complex Decongestive Physiotherapy, educated and evaluated their comprehension and skills. We suggested a practical 4-day program involving three elements, such as lectures on knowledge and skills of lymphedema, on lifestyle guidance for the patients with risks, and on self-lymphatic drainage. The schedule and elements mentioned above can be generally used in constructing programs reflecting situations of patients and nurses in various clinical sites. We will develop a standardized education program and to maintain their QOL.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・臨床看護学

キーワード：看護技術教育 続発性リンパ浮腫 複合的理学療法

## 1. 研究開始当初の背景

我が国における続発性リンパ浮腫の主な原因は、乳がんや子宮がん等の婦人科系がんに対する手術療法や放射線療法等の治療に伴い、リンパの流れが中断もしくは遮られることに起因する。これらを背景にリンパ浮腫患者は新たに年間1万人前後も増加して<sup>1)</sup>いるが、一方で「治療施設の地域間格差」や「継続治療を支える支援体制の不足」などの治療環境整備の遅れも指摘されている。

近年、がん医療現場にリンパ浮腫治療の第一選択である「複合的理学療法(以下CDPとする)」が導入されてきた。CDPとは、スキンケア・医療徒手リンパドレナージ(リンパの流れを促進する。以下、MLDとする)・圧迫療法と運動療法(患側四肢に圧迫装具等を着用して運動し、筋ポンプ作用を強化する)など4療法を含む保存的療法<sup>2)</sup>である。リンパ浮腫はがん患者の生活の質(以下QOLとする)を低下させる症状<sup>3)</sup>として注目されるに従いCDPの紹介やセラピストの介入等に関する解説記事や書籍は増えてきたが、未だにリンパ浮腫患者が直面する最大の問題の一つである治療環境格差の解決を導くまでに至っていない。

申請者は、平成17年よりリンパ浮腫患者への看護について探求し始め、『女性の続発性リンパ浮腫に対する外来看護システム構築(課題番号18592359)』研究においては、がん治療に伴うリンパ浮腫に対するCDPを基盤としたケアプログラムによる介入研究を行った。その結果、患者自身が浮腫を早期に発見し悪化防止のためのケアプログラムを徹底することが重要である<sup>4)</sup>とわかった。これは、少数の浮腫治療の専門家ではなく、患者の傍にいる看護師つまり『がん看護に携わるジェネラリスト看護師(以下ジェネラリストとする)』によるリンパ浮腫の知識提供やセルフケア技術教育の早期介入の必要性を示唆していた。

リンパ浮腫への治療・看護に関して、欧米では、治療施設における医師や看護師、セラピストによる介入効果だけでなく、American Lymphedema Instituteなどによる長期支援システムの評価などが報告されており、広く支援システムが整っていることがわかった。一方、本邦では、2008年度の診療報酬改正において乳がん治療に伴う浮腫予防目的の「リンパ浮腫指導管理料(100点)」が新設されたが、続発性リンパ浮腫の主たる原因である「乳がん」と「婦人科系がん」患者に対して、原疾患による医療保障制度の差別を表面化しただけであり、特に、婦人科系がん患者に至っては医療保障は未整備のまま取り残されたとの指摘もある。これは、患者間の不平等を感じさせるだけでなく、リンパ管疾患治療法の開発や患者支援システムの整備を遅延させ「患者のQOL支援」を脅かす危険性を含んでいる。

## 文献

1) 上山武史, 阿部吉伸: 平成13年度がん克服戦略研究事業「機能を温存する外科療法に関する研究」第1回班会議, 国立金沢病院心臓血管外科で入院加療したリンパ浮腫患者124例の検討: 国立がんセンター東病院, 2001年10月4日

2) Mary Kathleen Kearse, Elizabeth McMahon, Ann Ehrlich: Lymphedema Caregiver's Guide, Lymph Notes, 2009.

3) 加藤逸夫: 巻頭言、リンパ浮腫診療の実際-現状と展望、加藤逸夫監修 松尾汎編集、p3~6、2003.

4) 中尾富士子, 山本滋, 伊東美佐江, Susan Turale, : 乳癌術後のリンパ浮腫患者に行った複合的理学療法の効果, 山口医学, 56(1), 11-14, 2007.

## 2. 研究の目的

癌治療に伴う続発性リンパ浮腫の発症予防と悪化防止に関して、根拠に基づいた技術

を導入したジェネラリスト看護師教育プログラムを作成することを目的とする。

### 3. 研究の方法

(1)研究デザイン：ジェネラリストに対して、癌治療に伴うリンパ浮腫発症予防と悪化防止について教育し、そのジェネラリストの看護実践による効果を明らかにする。よって、看護介入による実験研究デザインをとる。

(2)対象者：癌治療に伴う続発性リンパ浮腫発症の危険性がある患者。また、癌治療に伴う続発性リンパ浮腫発症予防と悪化防止についての看護実践を行う看護師を対象とした。

#### (3)データ収集と分析

本研究は3つの段階を踏むこととした。

第一段階は、『ジェネラリスト教育プログラム』を受けた看護師の到達度を明らかにした。看護師教育終了時の到達度判定・技術獲得までの時間等をデータとして収集し、その結果とジェネラリストの意見を主とする質的データを分析し、教育プログラムを修正した。なお、ジェネラリストの知識と技術のレベルが一定規準に達するまで教育を継続した。

第二段階は、教育を受けたジェネラリストが行うリンパ浮腫患者への看護の効果を明らかにした。患者からは身体的・社会的・精神的側面について1年間観察した。身体的側面は水分量・筋肉量や血流の状態などの客観的データを得た。同時に患者の日常生活・セルフケア・精神面の状態を収集し、分析した。

第三段階は、前の2つの段階の結果を踏まえ、ジェネラリスト教育プログラムを作成した。

### 4. 研究成果

(1)概要：癌治療に伴う続発性リンパ浮腫発症予防と悪化防止への看護について、必要な基本的知識と技術を教育するプログラムであり、期間は4日間(7時間/1日)とした。

(2)教育プログラムの必要な要素：リンパ浮

腫に関する基本的知識と技術教育(基礎編)、複合的療法と癌治療に伴うリンパ浮腫発症リスクがある患者の日常生活指導(応用編)、セルフリンパドレナージの指導(演習)の3つが明らかになった。この要素を、それぞれの組織の状況に合わせて組み合わせて行うことができることが示唆された。

#### (3)プログラム構成に関するポイント

講義とセルフリンパドレナージの演習は、連続して組み込むなど時間的な間隔を空けない必要があると示唆された。本研究では、講義の直後にセルフリンパドレナージを演習したことで、ジェネラリストの知識と技術の理解をスムーズにしたと評価された。

病棟内・組織内で、対応している癌治療に伴う続発性リンパ浮腫患者の事例を取り入れたりしながら、講義(特に応用編)や演習を行うことは有用であると示唆された。本研究では、病棟で経験する症例を挙げて患者教育のロールプレイを導入したことは、看護師の理解をスムーズにしたと評価された。

#### (4)国内外における位置づけとインパクト、および今後の展望

本研究の成果は、癌治療に伴う続発性リンパ浮腫の発症予防と悪化防止に関する看護師教育プログラムの要素が明らかになり、その組み合わせは各組織の状況に合わせて行うことが可能であることが示唆された。つまり、3つの要素を組み入れ、そして各組織の状況から日程を決定し、病棟の特徴を反映し体験しやすい症例を挙げて看護展開を検討することで、臨床現場の現状にのっとった実践的な教育プログラムが導入できるということである。

現在、癌治療に伴う続発性リンパ浮腫の発症予防と悪化防止に関する看護の講習会はごく限られた地域で開催されていることから、時間的・経費の面から多くの看護師の受講は難しく、結果的に、患者への看護実践につながっていない。本研究は、このような現

状に対しての解決策として提言できると考えている。つまり、本研究の結果から教育プログラムを定着させていくことで、癌治療に伴う続発性リンパ浮腫を発症させたり、悪化させたりすることがなくなれば、患者の生活の質の低下も避けることができるなど、社会的ニーズへも答える手段の一つとなると推察される。

本研究の今後は、国内では、各組織での看護師教育体制へ組み込み、癌治療に伴う続発性リンパ浮腫患者への看護は看護師の基本的技術となるように努める。海外との連携については、既に交流している欧米の研究者と協働し、欧米と日本における看護師教育プログラムによる教育効果を比較するなど研究を継続して教育プログラムの標準化を目指すことも試みる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

Nakao, F., Nakao, H., Suzuki, S., Kinoshita, Y., et al.

The outcomes of program based on Complex Decongestive Physiotherapy for the patients with lymphedema at an outpatient setting in Japan. Sigma Theta Tau International 41<sup>st</sup> Biennial Convention, Grapevine, TX USA, 2011. (2011年10月29日-11月2日)

中尾富士子, 他. 3症例の比較によるリンパ浮腫患者のセルフケア教育の重要性, 第30回日本看護科学学会学術集会, 札幌, 日本. 2010年. (2010年12月3日-4日)

〔図書〕(計1件)

中尾富士子, がん患者へのケアとエビデンス-リンパ浮腫, がん看護, 南江堂, 17(2), 2012, 253-257.

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:

出願年月日:  
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
取得年月日:  
国内外の別:

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

中尾 富士子 (NAKAO, Fujiko)  
熊本大学・大学院生命科学研究部・准教授  
研究者番号: 40363113

##### (2) 研究分担者

鈴木 志津枝 (SUZUKI, Shizue)  
神戸市看護大学・看護学部・教授  
研究者番号: 00149709

中尾 久子 (NAKAO, Hisako)  
九州大学大学院・医学研究院・教授  
研究者番号: 80164127

樗木 晶子 (CHISHAKI, Akiko)  
九州大学大学院・医学研究院・教授  
研究者番号: 60216497

加来 恒壽 (KAKU, Tsunehisa)  
九州大学大学院・医学研究院・教授  
研究者番号: 60185717

木下 由美子 (KINOSHITA, Yumiko)  
九州大学大学院・医学研究院・助教  
研究者番号: 30432925